

サヴァチェが採集した植物標本に残る神奈川県の絶滅植物

田中徳久・大西 亘・勝山輝男

Norihisa Tanaka, Wataru Ohnishi and Teruo Katsuyama:
The Specimens of the Locally Extinct Plant in Kanagawa Prefecture,
Collected by P. A. L. Savatier

Abstract. P. A. L. Savatier (1830-1891), the French medical doctor of the Yokosuka naval dockyard, had collected many botanical specimens in Japan, especially in Yokosuka, Yokohama and other regions of Kanagawa Prefecture. We examined Savatier's collection for the presence of locally extinct plant specimen and for made a detailed observation of its identification at the Museum National d'Histoire Naturelle (MNHM) in France. As a result, we recognized 12 species those are locally extinct in Kanagawa Prefecture. Those materials are here reported with their images and some botanical notes.

はじめに

神奈川県のレッドデータ植物については、神奈川県レッドデータ生物調査団編（1995）および勝山ほか（2006）により報告されており、維管束植物については、134 種が絶滅種とされている（勝山ほか，2006）。勝山ほか（2006）は、絶滅種を「確実な記録（標本，写真，具体的な記述）のあるものに限り」，「既知の産地のすべてが確実に失われたもの，あるいは神植誌 88 と神植誌 01 の調査を通じて，現存が確認できなかったもの」とし，「リストに登載されているだけで，具体的な記述がないもの」は消息不明種としている。現在，神奈川県立生命の星・地球博物館では，神奈川県植物誌調査会と協力し，『神奈川県植物誌 1988』（神奈川県植物誌調査会編，1988；以下神植誌 88 と表記）・『神奈川県植物誌 2001』（神奈川県植物誌調査会編，2001；以下神植誌 01 と表記）の改訂のための調査を進めているが，それには絶滅種や消息不明種の標本記録の探索も含まれている。その成果については，田中・高橋（2007）による，横浜市こども植物園所蔵の宮代周輔氏のコレクションに含まれる神奈川県産のレッドデータ植物についての報告などがある。過去の文献記録の場合，古いほど参照すべき整理された文献が少なかった影響やその後の植物分類学の進歩などで，現在とは取扱いが異なる分類群の記述や同定の不確かさ，標本の存在（実存）がはっきりしない場合などの課題が少なくない。そのため，実

際の標本庫における標本調査によって，既知の記録の記述内容を確認することが，正確な自然史情報の集積のためにも重要である。

筆者らは，2014 年 5 月 27 日～ 6 月 6 日，フランスの国立自然史博物館 Museum National d'Histoire Naturelle (MNHM) の植物標本庫 (P) を訪れ，サヴァチェ Paul Amedee Ludovic Savatier (1830-1891) が神奈川県で採集した植物の標本調査を行った。その結果，サヴァチェが神奈川県内で採集した植物標本のうち，すでに神奈川県では絶滅したとされる植物の標本を確認することができたので，既存の標本記録と過去の分布について検討した結果とともに報告する。

サヴァチェの日本における植物研究

サヴァチェは，横須賀製鉄所の医官として 1866 年（慶応 2 年）7 月から 1876 年（明治 9 年）1 月（途中 1 年弱帰国）にかけて日本に滞在し，横須賀や横浜，鎌倉，箱根などで植物を採集した。採集した標本は，私設の標本庫に所蔵したほか，フランスの国立自然史博物館やドレイク Emmanuel Drake del Castillo の私設植物研究所に送っている（大場，2003；西野・Porak，2011；竹中，2013）。

サヴァチェの採集した植物標本を研究したのはフランシェ Andrien René Franchet で，サヴァチェと共著で『Enumeratio plantarum in japonia sponte crescentium, accedit determinatio herbarum in

libris japonicis So-Mokou Zoussets xylographice deloneatarum 日本植物目録』(Franch & Savatier, 1873-1875, 1877-1879; 以下日本植物目録と表記)を著し、多くの日本産植物を新種記載している。

標本調査と画像の収集

勝山ほか(2006)により、「絶滅」とされている134種のうち、現在までに再発見されたものを除く、標本が確認できていない種および標本記録のある絶滅種や「消息不明種」について標本調査を実施した。

上記の収蔵調査により確認された植物標本は、Nikon製デジタル一眼レフカメラ D800E と AF-S NIKKOR 28mm f/1.8G により内臓フラッシュを使用し、手持ちで撮影し、4,912 × 7,360 pixel の画像を収集した。得られた標本画像から、ラベルに記されている内容を判読し、標本の属性(学名、採集地、採集年月日、採集者、採集者の標本番号、標本庫の標本番号など)をデジタルデータ化した。この標本の属性は、収集した画像とともに、神奈川県立生命の星・地球博物館の収蔵資料管理システムの維管束植物画像(KPM-NX)に登録した。

なお、今回調査、報告した標本は、採集情報の登録が十分でないものもあるが(今回の例では“Sector ASI”のみが登録)、フランスの国立自然史博物館で公開している標本データベース(<http://science.mnhn.fr/institution/mnhn/search>; 以下 MNHN-DB と表記)で標本画像が公開されている。

結果と考察

以下に、日本植物目録に掲載されている現在の神奈川県では絶滅した植物のうち、サヴァチェが神奈川県で採集した標本が確認できた植物12種と、標本が確認できなかった2種について、目録とその写真を示した。

神奈川県で絶滅した植物12種のうち、ノグサ *Schoenus apogon* Roem. & Schult., チョウジソウ *Amsonia elliptica* (Thunb.) Roem. & Schult., ママコナ *Melampyrum roseum* Maxim. var. *japonicum* Franch. & Sav. の3種は、過去の文献記録があるものの、これまで自生品の標本の存在が確認されていなかったものである。ノグサは、神植誌01では絶滅種とされているが、勝山ほか(2006)では漏れていたものである。神植誌01は *Schoenus apogon* Roem. & Schult. の異名である *Chaetospora albescens* Franch. & Sav. の基準産地は横須賀付近であるとしており、その意味では、神奈川県産の標本が知られていたことになる。

目録は神植誌01の配列に従い、神植誌01の和名、学名(一部は神奈川県立生命の星・地球博物館の収蔵資料管理システムで採用したものをを用いた; 以下、学名中の命名者名の“et”は“&”に表記を統一した)を見出しとし、該当種と同定した標本のラベルに記載されている学名、採集地、採集年月日、採集者、採集者の標本番号、

標本庫(P)、標本番号、本報での図番号、コメントの順で記述した。また、目録中、頻出する植物誌・植物目録については、引用文献欄に示した省略形で記載した。なお、引用した標本の標本番号に付した標本庫の略号は以下の博物館の植物標本庫を示す。

ACM: 厚木市郷土資料館

KPM: 神奈川県立生命の星・地球博物館

MAK: 首都大学東京牧野標本館

P: フランス国立自然史博物館 Museum National d'Histoire Naturelle

TI: 東京大学総合研究博物館・東京大学大学院理学系研究科附属小石川植物園

TKB: 筑波大学(現在は TNS へ移管)

TNS: 国立科学博物館

YCB: 横浜市こども植物園

YCM: 横須賀市自然・人文博物館

標 本 目 録

標本が確認できた種

ミズアオイ科 PONTEDERIACEAE

ミズアオイ *Monochoria kosakowii* Regel & Maack

M. vaginalis Presl., Sagami, 1866-1874, Savatier, No.1216, P02172335 (図1); ibid., P02172336.

神植目33, 神植誌58, 宮代目58, 箱根目58に具体的な産地は記されていないが、横浜で採集された標本(武蔵鶴見 1926.9.26 久内清孝 TI)が残されている。神植誌88には、守矢淳一氏が1979年に平塚市四之宮の湿地に一時的に群生したのを確認したことが記述されているが、標本は採集されていない。

今回確認された標本(Savatier, No.1216, P02172335, 図1, P02172336)は、ラベルに *M. vaginalis* Presl. (現在はコナギの正名として使用される)と記されており、MNHN-DBには *M. vaginalis* (Burm.f.) C.Preslとして登録されているが、本種 *M. kosakowii* Regel & Maack と同定した。なお、この標本は日本植物目録の *M. vaginalis* Presl. の項 (Vol.2, pp.94-95, No.1969) に引用されているもので、“Icon. Jap. Sô mokou Zoussetz, Vol.4, fol.12, sub: Midsou awoi” とある。

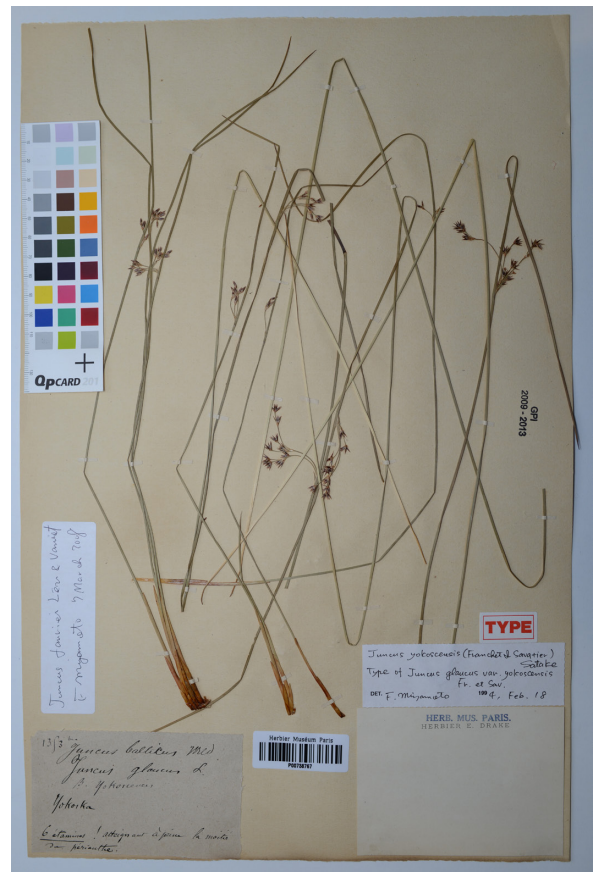
イグサ科 JUNCACEAE

イヌイ *Juncus yokoscensis* (Franch. & Sav.) Satake *J. glaucus* Ehrh. β. *yokoscensis* (*J. balticus* Willd.), Yokoska, Savatier ?, No.1353bis, P00738767 (図2).

神植目33, 宮代目58に掲載されているが、具体的な産地は記されていない。神植誌58には産地は記されていないが、「瀬海の砂地に普通」とある。また、丹沢目61には産地として大山、丹沢山~蛭ヶ岳、世附が記されているが、神植誌01では、「産地から考えて間違いであると思われる」とされている。また、藤沢市で採集され



☒ 1. ミズアオイ *Monochoria kosakowii* Regel & Maack, Savatier, No.1216, P02172335 (KPM-NX0000306) .



☒ 2. イヌイ *Juncus yokoscensis* (Franch. & Sav.) Satake, Savatier ?, No.1353bis, P00738767 (KPM-NX0000278) .



☒ 3. アワガエリ *Phleum paniculatum* Huds., Savatier, s.n., P02261671 (KPM-NX0000756) .



☒ 4. ノグサ *Schoenus apogon* Roem. & Schult., Savatier, No.1396, P00076944 (KPM-NX0000706) .

た標本(藤沢市鵠沼 1929.6.9 杉山泰一 TI)が残されている。

J. yokoscensis (Franch. & Sav.) Satake の基礎異名である *J. glaucus* L. β . *yokoscensis* の基準産地は横須賀付近で、今回確認した標本(Savatier, n.1353bis, P00738767, 図 2) は日本植物目録の *J. glaucus* L. β . *yokoscensis* の項 (Vol.2, pp.97-98, No.1975) で引用されている標本で、この基準標本である。

イネ科 POACEAE (GRAMINEAE)

アワガエリ *Phleum paniculatum* Huds.

Phleum japonicum Franch. & Sav., Yokoska, Savatier, s.n., P02261671 (図 3) .

神植目 33 にはアワガエリ *P. asperum* Vill. var. *annum* Gris. の記載があるが、神植誌 58 には「県内で採集した記録があるが現在不明」とある。神植誌 88 のための調査では採集されなかったが、神植誌 01 の調査では逗子で採集された(逗子市逗子 1989.5.19 宮崎卓 KPM-NA1106937)。しかし、神 RD06 によるとこの産地は造成により失われた。

本種 *P. paniculatum* Huds. の異名とされる日本植物目録の *P. japonicum* Franch. & Sav. の項 (Vol.2, p.158, No.2161) には “in arenosis maritimis prope Yokoska (Savatier)” とのみあり、*P. japonicum* Franch. & Sav. の基準産地のひとつは横須賀とされ、今回確認した標本が基準標本である可能性がある。

カヤツリグサ科 CYPERACEAE

ノグサ *Schoenus apogon* Roem. & Schult.

Chaetospora albescens Franch. & Sav., Yokoska, Avril 1867, Savatier, No.1396, P00076944 (図 4) ; Yokoska, Savatier, No.1399, P00076945.

神目録 33, 神植誌 58 に掲載されておらず、神植誌 88 と神植誌 01 のための調査でも採集されていない。神植誌 01 には「房総半島にあるので、三浦半島に産した可能性は高い」と記されている。

C. albescens Franch. & Sav. は本種 *S. apogon* Roem. & Schult. の異名とされる *S. albescens* (Franch. & Sav.) Matsum. の基礎異名であり、*C. albescens* Franch. & Sav. の基準産地は横須賀付近とされ、今回確認した標本のうちの 1 点 (Savatier, No.1396, P00076944, 図 4) は日本植物目録の *C. albescens* Franch. & Sav. の項 (Vol.2, p.122, No.2051) で引用されているもので、この基準標本である。

ヒメハリイ *Eleocharis kamtschatica* (C.A.Mey.) Komar. *Scirpus mitratus* Franch. & Sav., Yokoska, 1866-1874, Savatier, No.1384, P00067683, ibid., P00067684; ibid., P00067697, 図 5) ; *E. pileata* R. Br., Yokoska, 1866-1871, Savatier ?, No.1384, P00067701.

三浦半島で採集された標本(三浦半島下宮田 1929.6.16 杉山泰一 TI)と横浜市で採集された標本(横浜市金沢区泥亀新田 1955.6.10 村上司郎 TKB62441; 横浜市港北区 1967.5.8 宮代周輔 YCB038705)が残されているが、神植誌 88 と神植誌 01 のための調査では採集されていない。刺針状花被片がないか痕跡状に退化したものはクロハリイ form. *reducta* (Ohwi) Ohwi として細分され、神植誌 01 によると、上記の県内産の標本はこの型であった。

S. mitratus Franch. & Sav. は本種 *E. kamtschatica* (C.A.Mey.) Komar. の異名とされ、*S. mitratus* Franch. & Sav. の基準産地は横須賀付近で、今回確認した標本のうち 3 点 (P00067683; P00067684; P00067697, 図 5) は、日本植物目録の *S. mitratus* Franch. & Sav. の項 (Vol.2, p.111, No.2020) で引用されているもので、この基準標本である。残る 1 点 (P00067701) は、ラベルに *E. pileata* R.Br. と記されているが、本種と同定され、採集者の標本番号 (No.1384) は一致するが、基準標本とするかは検討の余地がある。

タデ科 POLYGONACEAE

サデクサ *Persicaria maackiana* (Regel) Nakai

Polygonum maackianus Regel, Yokoska, Savatier, No.2145, P05035497 (図 6) ; ibid., P05035499; *P. thunbergii* δ . *maackiana* Maxim., Yokoska, 1866-1874, Savatier, s.n., P05035494.

神植目 33, 神植誌 58, 箱根目 58 には、各地からの報告があり、茅ヶ崎で採集された標本(茅ヶ崎 1915 牧野富太郎 MAK-14977; 相模茅ヶ崎 1914.10.11 久内清孝 TI)が残されているが、神植誌 88 と神植誌 01 のための調査では採集されていない。

今回確認した 3 点の標本のうち 2 点 (Savatier, No.2145, P05035497, 図 6; P05035499) は日本植物目録の *P. maackianus* Regel の項 (Vol.1, p.399, No.1428) で引用されているもので、うち 1 点 (P05035494) は、ラベルに *P. thunbergii* δ . *maackiana* Maxim. と書かれているが、本種と同定した。ただし、これらの標本は、MNHN-DB には、*Polygonum thunbergii* Siebold & Zucc. として登録されている。

アカザ科 CHENOPODIACEAE

ハマアカザ *Atriplex subcordata* Kitag.

A. tatarica L., Yokoska, 1866-1874, Savatier, No.1003bis?, P05408206 (図 7) .

県内では三浦半島や鎌倉周辺で採集された標本(相模鎌倉 1956.8.26 Y.Asai TNS283145; 鎌倉 1956.8.27 S.Okuyama TNS257940; 相模横浜 1894.9.16 TNS19325; 横浜平沼 1893.10.2 牧野富太郎 MAK41310; 横浜平沼 1894.9.3 牧野富太郎



図 5. ヒメハリイ *Eleocharis kamtschatica* (C.A.Mey.) Komar., Savatier, No.1384, P00067697 (KPM-NX0000736) .



図 6. サデクサ *Persicaria maackiana* (Regel) Nakai, Savatier, No.2145, P05035497 (KPM-NX0000257) .



図 7. ハマアカサ *Atriplex subcordata* Kitag., Savatier, No.1003bis?, P05408206 (KPM-NX0000223) .



図 8. ハマハタザオ *Arabis stelleri* DC. var. *japonica* (A.Gray) F.Schmidt., Savatier, No.3354, P05349463 (KPM-NX0000185) .

MAK97328; 藤沢市鵠沼 1960.5.30 西尾和子 KPM-NA0003363; 江ノ島 1935 牧野富太郎 MAK97327; 横須賀天神島 1955.11.20 水島正美 MAK2489; 横須賀市観音崎 1968.9.5 小坂橋八千代 YCM8871) が多く残されているが、最近では採集されていない。

A. littoralis L. *δ. dilatata* Franch. & Sav. は本種 *A. subcordata* Kitag. の異名とされ、その基準産地は横須賀であり、日本植物目録の *A. littoralis* L. *δ. dilatata* Franch. & Sav. の項 (Vol.1, p.387, No.1384) に は、“prope Yokoska (Savatier, n.1003bis)” とあるが、今回確認した標本のラベルに書かれている採集者の標本番号は“1003bis”には読めない (図 7)。しかし、ラベルにある *A. tatarica* L. は、日本植物目録 (Vol.2, p.470, No.2699) に掲載され、*A. littoralis* L. *δ. dilatata* Franch. & Sav. を異名としている。なお、日本植物目録の *A. littoralis* L. *γ. angustissima* の項 (Vol.1, p.387, No.1384) で引用されている標本 (Yokoska, Savatier, No.1003, P04930357) は ホソバハマアカザ *A. gmelinii* C.A.Mey. と同定した。

アブラナ科 BRASSICACEAE (CRUCIFERAE)

ハマハタザオ *Arabis stelleri* DC. var. *japonica* (A.Gray) Fr.Schm.

A. stelleri DC. var. *japonica* Schmith, Kamakaura, 1866-1874, Savatier, No.3354, P05349463 (図 8); *ibid.*, P05349500; Yenoshima, Avril 1877, Dickins, s.n., P05349526; *ibid.*, P05349528.

神植誌 58 には産地として葉山、三崎、下浦、久里浜などが記されているが、鎌倉・三浦で採集された標本 (鎌倉市七里が浜 1960.6.5 間瀬美保子 YCM996; 相模三浦郡千駄ヶ崎 1929.5.5 靱山泰一 TI) のほか、大磯で採集された標本 (大磯千畳敷 1906.8. 真板敏美 ACM31221) があり、1965 年に平塚で高橋秀男が写した写真がある (神奈川県レッドデータ生物調査団編, 1995)。神植誌 88 と神植誌 01 のための調査では採集されていない。

本種の異名とされる *A. yokoscensis* Franch. & Sav. の基準産地は横須賀であるが、日本植物目録の *A. yokoscensis* Franch. & Sav. の項 (Vol.1, p.34, No.140, Vol.2, p.249) に引用されている標本 (Yokoska, Savatier, No.84, P00720149, 図 9) には、*A. hirsuta* L. の同定票が貼られており、ヤマハタザオと同定された。

ハナハタザオ *Dentostemon dentatus* Bunge

D. dentatus Bunge var. *glandulosus* Maxim., Odawara, 1866-1874, Savatier, No.85, P05412321; *ibid.*, P05412322; *ibid.*, P05412323 (図 10)。

神植目 33 には産地として三浦 (葉山、辻堂、茅ヶ崎、今宿、宮前、東秦野) が記され、神植誌 58 には「山地に稀産」と記し、丹沢目 61 は丹沢山に稀とし、平塚産

の標本 (相模平塚 1895.8.4 牧野富太郎 MAK120114-120125) が残されている。神植誌 88 と神植誌 01 の調査では発見されていない。本種は、var. *glandulosus* Maxim. ネバリハタザオを区別することがあり、神植誌 58 に「小田原 (大井氏)」、大井 (1965 ほか)。「本州 (相模:小田原) から記載された」とあるが、神植誌 01 は「これらは本変種の原因に基づく記録と思われる」としている。

今回確認された標本は、日本植物目録では、var. *glandulosus* Maxim. (和名は本変種に“Hana Hatazavo”とある) として掲載され (Vol.1, p.37, No.152), 標本が引用されている (Savatier, No.85) が、Al-Shehbaz *et al.* (2006) は、ネバリハナハタザオも母種ハナハタザオに含めており、ここでも区別しなかった。

キョウチクトウ科 APOCYNACEAE

チョウジソウ *Amsonia elliptica* (Thunb.) Roem. & Schult.

A. elliptica Roem. & Schult., Yokoska, 1866-1874, Savatier, No.836, P03521656; *ibid.*, P03521657; *ibid.*, P03521664 (図 11); Yokoska, Savatier, s.n., P03521663.

神植目 33 に橘樹 (長尾)、神植誌 58 に横浜 (鶴見) で絶滅と記されており、神植誌 01 には「標本は確認していない」とあり、今回確認された本種の標本は重要である。

今回確認された標本のうち 3 点 (Savatier, No.836, P03521656; P03521657; P03521664, 図 11) は、日本植物目録の *A. elliptica* Roem. & Schult. の項 (Vol.1, p.315, No.1151) で引用されているものである。

シソ科 LAMIACEAE (LABIATAE)

カイジンドウ *Ajuga ciliata* Bunge var. *villosior* A.Gray ex Nakai

A. ciliata Bunge, Yokoska, Savatier, s.n., P03431420; Yokoska, 1867, Savatier, s.n., P03431423 (図 12)。

神植誌 58 には産地として横浜、伊勢原、箱根等が記されており、1924 ~ 1953 年に横浜市鶴見区と旭区で採集されているが (横浜市鶴見区二ツ池 1948.5.5 米田定弘 KPM-NA0080711; 横浜市旭区川島町 1924.4.24 下山アイ KPM-NA0080712; 横浜市旭区上川井 1953.4.26 出口長男 KPM-NA0080718; 横浜市旭区川島町 1952.6.? 内田光雄 KPM-NA0100935), それ以降確認されていない。

今回確認された標本は、標本のラベルに *A. ciliata* Bunge と記されているが、日本植物目録には、*A. ciliata* Bunge の掲載はない。また、日本植物目録に掲載されている *A. genevensis* L. (Vol.1, p.382, No.1368) の和名には、Tanaka の引用として“Kaï dzindô”や、“Phonzo zoufou”の引用として“Iwa djissa”, “Sô mokou Zoussetz”の引用として

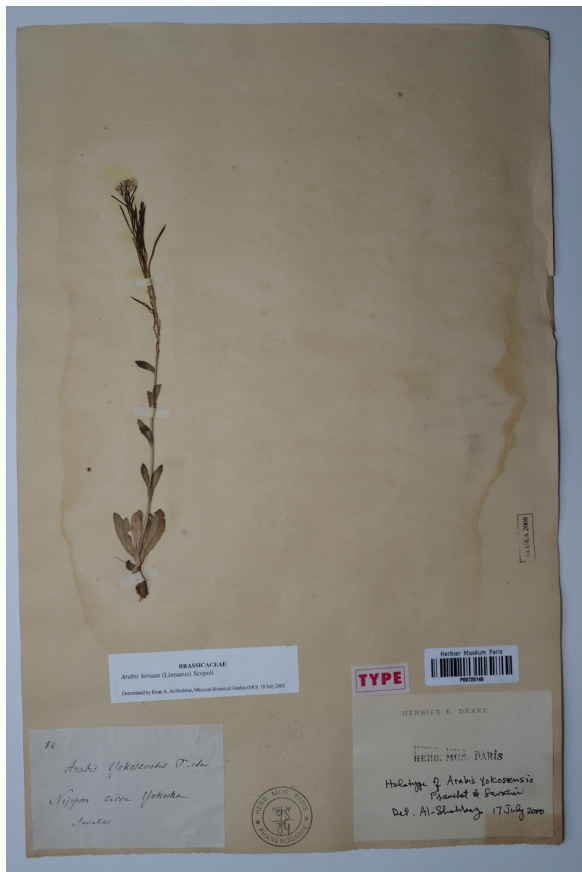


図 9. ヤマハタザオ *Arabis hirsuta* L.Savatier, No.84, P00720149 (KPM-NX0000196) .



図 10. ハナハタザオ *Dentostemon dentatus* Bunge, Savatier, No.85, P05412323 (KPM-NX0000203) .

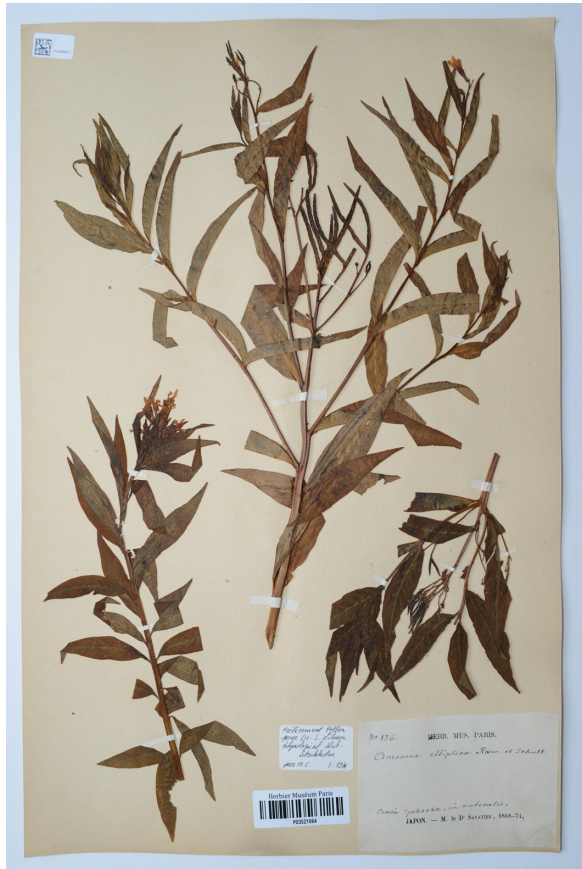


図 11. チョウジソウ *Amsonia elliptica* (Thunb.) Roem. & Schult., Savatier, s.n., P03521664 (KPM-NX0000216) .



図 12. カイジンドウ *Ajuga ciliata* Bunge var. villosior A.Gray ex Nakai, Savatier, s.n., P03431423 (KPM-NX0000493) .

“kaïdzinso”, “Kikou ba no dziouni hitoge” などが記されているが、ここで引用されていると思われる標本 (Yokohama, Savatier, No.985, P03431880) はジュウニヒトエ *A. nipponensis* Makino と同定された。

ゴマノハグサ科 SCROPHULARIACEAE

ママコナ *Melampyrum roseum* Maxim. var. *japonica* Franch. & Sav.

M. ciliare Miq., Hakone, Savatier s.n., P03018948 (図 13) .

神植誌 58 には箱根、塔ノ岳、丹沢目 61 には産地として塔ノ岳、幽神、世附が記されている。神植誌 01 では、「確認できる標本がなく、その後の調査でも確認の報告がない。分布があっても不思議はないが、記録だけで実物に接していないもっとも気になる植物の 1 つである」とされている。本種の標本については、田中・高橋 (2007) が宮代コレクション中の標本 (相模 1954.5.9 YCB015813) を示しているが、「植栽品を採集した可能性がある」としている。田中・高橋 (2007) の記述を読むと、採集年月日や採集地の誤記の可能性もあるように思える。

今回確認された標本のラベルにある *M. ciliare* Miq. は、本種 *M. roseum* Maxim. var. *japonica* Franch. & Sav. の異名とされる (Yamazaki, 1993)。日本植物目録には、*M. ciliare* Miq. も掲載されているが (Vol.1, p.352, No.1282.), “in Japonicâ, loco non adnotato, ex Keiske” とあるのみで標本は引用されていない。今回の調査で確認したサヴァチェの標本には、採集地が “Hakone” と明記されていることもあり、神奈川県内の標本として重要なものである。

標本が確認できなかった種

オモダカ科 ALISMATACEAE

サジオモダカ *Alisma plantago-aquatica* L. var. *orientale* Sam.

A. plantago L., Yokoska, 1866-74, Savatier, No.1211bis, P02084271 (図 14) ; *A. plantago* L. var. *lanceolata*, ibid., Savatier, No.1211, P02084272 とともにヘラオモダカ *A. canaliculatum* A.Braun & C.D.Bouchex Sam.

神植目 33, 神植誌 58, 箱根目 58 に掲載されているが、具体的な産地は記されていない。帝国女子医学薬学専門学校 (1932) には産地として川崎市多摩区登戸が記されている。1800 年代終わりから 1900 年代始め頃に採集された標本 (武蔵横浜 1911.9.24 牧野富太郎 MAK17081 ; Hiraduka Sagami 1895.8.4 牧野富太郎 MAK176080 ; 秦野市蓑毛 1914.7 池谷新太郎 ACM30121) が残されているが、神植誌 88 と神植誌 01 のための調査では採集されていない。

今回の調査では、ラベルに *A. plantago* L. (P02084271, 図 14), *A. plantago* L. var.

lanceolata (P02084272) と書かれた日本植物目録でサジオモダカとして扱われた可能性のある標本が見出されたが、ともにヘラオモダカ *A. canaliculatum* A.Braun & C.D.Bouchex Sam. と同定した。このうち 1 点 (Savatier, No.1211bis, P02084271, 図 14) は、日本植物目録の *A. plantago* L. β . *parviflorum* Beck ex Kunth の項 (Vol.2, p.16, No.1746) に引用されているもので、*A. plantago* L. には和名が “Sasio modaka” と記されているが、 β . *parviflorum* Beck ex Kunth には和名の記載はない。

トウダイグサ科 EUPHORBIACEAE

ノウルシ *Euphorbia adenochlora* C.Morren & Decne. *E. rochebruni* Franch. & Sav., Yokoska, 1866-1874, Savatier, No.1096, P00690970 (図 15) ; ibid., P00690972 (図 16) は未同定。

箱根目 58 には箱根、帝国女子医学薬学専門学校 (1932) には登戸、出口 (1968) には産地として鶴見川河畔が記されており、箱根で採集された標本 (相州箱根山 S.Tamaki TI) が残されている。神植誌 88 の調査では横浜で採集された標本 (横浜市港北区樽町 1981.4.18 川合友理枝 KPM-NA1003674) があり、これが神奈川県内で採集された最後の標本となった。

日本植物目録の *E. adenochlora* Morr. & Decn. の項 (Vol.1, p.422, No.1514) には、標本は引用されておらず、和名に “Taka to dai” とあり、現在の本種 *E. adenochlora* C.Morren & Decne. とは異なるものの記述の可能性がある。一方、本種の異名とされる *E. rochebrunei* Franch. & Sav. (Kurosawa, 1999) が日本植物目録に掲載されており (Vol.1, p.421, No.1510; Vol.2, pp.485-486), “in silvaticis circa Yokoska insule Nippon (Savatier, n.1097bis)” とあり、標本が引用されているが、この標本は今回の調査では確認できなかった。しかし、ラベルに *E. rochebruni* Franch. & Sav. と記された標本 2 点 (P00690970, 図 15; P00690972, 図 16) を見出した。ただし、これらは日本植物目録の *E. jolkini* Boiss の項 (Vol.1, p.421, No.1512) に “ad promontorium Mela prope Yokoska (Savatier, n.1096)” として引用されているものだと考えられ、1 点 (P00690972, 図 16) には、中井猛之進による *E. jolkini* Boiss (イワタイゲキ) との同定票が付されていた。

今回の調査では、時間不足により標本では確認できなかったが、今回確認した *E. rochebruni* Franch. & Sav. とされている標本の 1 点 (P00690972, 図 16) には、花の各部の詳細なスケッチが貼付されている。このスケッチが、貼付されている標本のものであるとすると、このスケッチの子房の外面にはこぶ状突起を描かれていないので、ノウルシ *E. adenochlora* C.Morren & Decne. でもイワタイゲキ *E. jolkini* Boiss でもないと言える。もう 1 点 (P00690970, 図 15) にはスケッチがな



図 13. ママコナ *Melampyrum roseum* Maxim. var. *japonica* Franch. & Sav., Savatier s.n., P03018948 (KPM-NX0000465) .



図 14. ヘラオモダカ *Alisma canaliculatum* A. Braun & C. D. Bouché Sam. Savatier, No. 1211bis, P02084271 (KPM-NX0000286) .



図 15. トウダイグサ属未同定 *Euphorbia* sp., Savatier, No. 1096, P00690970 (KPM-NX0000524) .



図 16. トウダイグサ属未同定 *Euphorbia* sp., Savatier, No. 1096, P00690972 (KPM-NX0000523) .

いので、詳細は不明であるが、台紙に鉛筆書きで“type”と記されていた。

謝 辞

フランス国立自然史博物館の Marc Jeanson 博士に標本調査でお世話になった。また、桜美林大学の木場英久教授と本誌編集委員のみなさまには本稿の内容について、有益な助言を頂いた。併せて感謝の意を表します。なお、本研究の一部は JSPS 科研費 23501234 の助成を受けて行われた。

引 用 文 献

- Al-Shehbaz I. A., K. Arai & H. Ohba, 2006. Cruciferae. Iwatsuki, K., D. E. Boufford & H. Ohba eds., Flora of Japan, 2a. pp.454-511. Kodansha, Tokyo.
- 出口長男, 1968. 横浜植物誌. 44+256pp. 秀英出版, 横浜.
- Franch A. & L. Savatier, 1873-1875. Enumeratio plantarum in japonia sponte crescentium, accedit determinatio herbarum in libris japonicis So-Mokou Zoussets xylographice delineatarum. Vol.1.15+485pp. F. Savy, Paris.
- Franch A. & L. Savatier, 1877-1879. Enumeratio plantarum in Japonia sponte crescentium : hucusque rite cognitarum, adjectis descriptionibus specierum pro regione novarum, quibus accedit determinatio herbarum : in libris japonicis So Mokou Zoussetz, Xylographice delineatarum. Vol.2., 789+3pp. F. Savy, Paris.
- 林 弥栄・小林義雄・小山芳太郎・大河原利江, 1961. 丹沢山塊の植物調査報告. 林業試験場研究報告, (133): 1-128, pl.1-16. (丹沢目 61)
- 神奈川県博物館協会編, 1958. 神奈川県植物誌. 4+257pp. 神奈川県博物館協会, 横浜. (神植誌 58)
- 神奈川県レッドデータ生物調査団編, 1995. 神奈川県レッドデータ生物調査報告書. 神奈川県立博物館調査研究報告 (自然科学), (7): 1-257.
- 神奈川県植物誌調査会編, 1988. 神奈川県植物誌 1988. 1442pp. 神奈川県立博物館, 横浜. (神植誌 88)
- 神奈川県植物誌調査会編, 2001. 神奈川県植物誌 2001. 1582pp. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原. (神植誌 01)
- 勝山輝男・田中徳久・木場英久・神奈川県植物誌調査会, 2006. 維管束植物. 高桑正敏・勝山輝男・木場英久編, 神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006. pp.37-130. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原. (神 RD06)
- Kurosawa, T., 1999. Euphorbia. Iwatsuki, K., D. E. Boufford & H. Ohba eds., Flora of Japan, 2c. pp.22-30. Kodansha, Tokyo.
- 松野重太郎編, 1933. 神奈川県植物目録. 5+111+23pp. 神奈川県博物調査会, 横浜. (神植目 33)
- 松浦茂寿, 1958. 箱根植物目録. 4+2+7+90+25pp. 箱根博物会, 小田原. (箱根目 58)
- 宮代周輔, 1958. 神奈川植物目録. 4+112+41pp. 自費出版. (宮代目 58)
- 西野嘉章・C.Porak, 2011. 日本近代植物学黎明期における日仏協働の実相—リュドヴィク・サヴァティエの遺産から. 植物研究雑誌, 86: 170-188.
- 大井次三郎, 1965. 改訂新版 日本植物誌, 顕花篇. 1560pp. 至文堂, 東京.
- 大場秀章, 2003. 日本植物の研究を競った欧米諸国. 大場秀章編, シーボルトの 21 世紀. pp.119-129. 東京大学総合研究博物館, 東京.
- 田中徳久・高橋秀男, 2007. 「宮代コレクション」の神奈川県レッドデータ植物. 神奈川自然誌資料, (28): 29-38.
- 帝国女子医学薬学専門学校, 1932. 武蔵登戸付近植物目録. 63+17pp. 東京.
- 竹中祐典, 2013. 花の沫—植物学者サヴァチエの生涯. 262pp. 八坂書房, 東京.
- Yamazaki T, 1993. Scrophulariaceae. Iwatsuki, K., D. E. Boufford & H. Ohba eds., Flora of Japan, 3a. pp.326-374. Kodansha, Tokyo.
- 田中徳久・大西 亘・勝山輝男：神奈川県立生命の星・地球博物館